

教科(科目)	日本史B	単位数(時数)	4単位(148)	学年(科)	2学年(国際文化科)
使用教科書	・山川出版社『詳説日本史B』				
副教材等	・第一学習社『最新日本史図表 新版』 ・山川出版社『改訂版詳説日本史10分間テスト』 ・実教出版『五訂必携日本史用語』 ・浜島書店『ゼミナール日本史』				

## 1. 学習目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

## 2. 指導の重点

- 1 授業第一主義を貫徹すること。分かりやすい授業と興味を持つ
- 2 週末課題と小テストに真剣に取り組み、知識定着を図る。特に記述力を重視した指導を行う。
- 3 日本史に関する視聴覚教材を通じて一層の理解の深化をはかるとともに、地図や資料を活用して、歴史的思考力や分析力を養う。

## 3. 評価規準と評価方法

## ○関心・意欲・態度

我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。

## ○思考・判断・表現

我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

## ○資料活用の技能

我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

## ○知識・理解

我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点から、以下の方法で総合的に評価する。

- ・授業への取り組み方や授業態度、提出物の内容及び提出状況 ・小テスト・定期考査の成績

## 4. 学習アドバイス

## 1 授業を大切に

歴史における因果関係(この出来事が原因で、この事件が起きたなど)を常に考えながら、授業へ主体的に参加しましょう。また、歴史的事項をただ羅列的に覚えるのではなく、「つながり」を意識して理解に努めてもらいたいです。

## 2 週末課題・小テストで、基礎・基本の定着を

年号や歴史上の登場人物の名前、出来事など基本的事項を覚えるのは深い考察の土台となり、大事なことです。上記のさまざまな機会を利用して覚えましょう。その際、歴史の全体像を把握しておくこと効率的です。

## 3 定期考査をしっかりと活用

定期考査はある程度広い範囲から出題されるという点において、小テストとは異なる性質をもっています。範囲が広いだけに、数週間前から計画的に少しずつ復習していくことが必要です。

(担当:金子 将人)

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	歴史の始まり (副教材『詳説日本史B』（以下、副と記述）日本文化のあけぼの)	30	①文化のはじまり ②農耕社会の成立 ③古墳とヤマト政権 ④飛鳥の朝廷 ⑤律令国家の成立 ⑥平城京の時代 ⑦天平文化 ⑧平安朝廷の形成 ⑨摂関政治	①旧石器・縄文文化の社会を資料に基づき学ぶ。 ②弥生文化の特徴、小国が形成過程を理解する。 ③古墳の変容や東アジアとの関係、人々の生活の変容理解。 ④推古朝の飛鳥の朝廷の時代を理解する。 ⑤律令国家成立への政治動向・古代文化の発展過程の理解。 ⑥平城京における政治の動き、民衆への土地政策の理解。 ⑦天平文化における政治性と国際性、国家仏教の理解。 ⑧平安京前期の政治改革、地方の変貌、文化を理解する。 ⑨藤原氏による摂関政治が地方における土地・人々との支配体制に及ぼした影響を理解する。
5	古代の国家 (副 律令国家の形成、貴族政治と国風文化)			
6	*前期中間考査 中世への移行 (副 中世社会の成立)	15	①国風文化 ②荘園と武士 ③院政と平氏の台頭	①国風文化が東アジア世界との関係の変化や大陸文化を消化した上に展開されていることを理解する。 ②荘園・公領の動きに変化があったことや、武士の成長と進出過程について理解する。 ③院政期の政治・社会を宋との関係にも着目し、理解する。
7 8 9	中世への移行 (副 中世社会の成立)  *前期末考査	34	①鎌倉幕府の成立 ②武士の社会 ③蒙古襲来と幕府の衰退 ④鎌倉文化 ⑤室町幕府の成立 ⑥幕府の衰退と庶民の台頭 ⑦室町文化 ⑧戦国大名の登場 ⑨織豊政権 ⑩桃山文化	①鎌倉幕府が東国から全国政権に成長する過程を理解する。 ②執権政治の確立や武士の地方支配を理解する。 ③蒙古襲来による政治・経済・文化への影響を理解する。 ④庶民や武士の活動と文化の新気運をとらえる。 ⑤南北朝動乱から室町幕府の成立を理解する。 ⑥幕府の動揺と庶民の台頭、産業発達や東アジアとの交流など、多様な展開を幅広く理解する。 ⑦室町文化について、文化の融合や庶民文化が萌芽文化が地方普及を中心に理解する。 ⑧応仁の乱以降の戦国大名について理解する。 ⑨ヨーロッパ人の進出とその影響を理解する ⑩時代的背景を踏まえて理解する。
10 11 12	近世国家の成立 (副 幕藩体制の成立、幕藩体制の展開)  *後期中間考査 近隣諸国と西洋諸国政治秩序の崩壊 (副 幕藩体制の動揺)	44	①幕藩体制の成立 ②幕政の安定と経済の発展 ③元禄文化 ④幕政の改革 ⑤幕府の衰退 ⑥化政文化 ⑦開国と幕末の動乱	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立を政治経済・社会外交面など、多角的に理解する。 ②幕府安定期と経済発展について、理解する。 ③上方中心の町人文化を理解する。 ④幕府や諸藩の諸改革について特徴を理解する。 ⑤幕府が衰退していく過程を理解する。 ⑥江戸中心の化政文化の成立について、各分野の特徴を、地方文化の成長にも留意して理解する。 ⑦開国から明治維新に至るまでの過程について、国際環境・社会経済と関連づけて理解する。
1 2 3	近現代史 近代史  *後期末考査	25	明治～立憲国家の成立～日清・日露戦争・第一次世界大戦と日本～ワシントン体制～恐慌の時代～軍部の台頭～第二次世界大戦～占領と改革～冷戦と講和～55年体制～冷戦終結	明治新政府の諸政策から自由民権運動、日清・日露戦争と資本主義国家の形成、第一次世界大戦後のワシントン体制、20年代の相次ぐ恐慌、軍部の拡大と政党内閣の崩壊、日中戦争から終戦、占領政策から民主化政策、55年体制から特需、高度経済成長、冷戦体制の終結の概観 *3年生での日本史特論の授業で、世界史の視点を併せて再度学習する

計 148 時間 (48 分授業)